

令和5年度 学校自己評価システムシート(県立杉戸高等学校)

目指す学校像	一人ひとりの能力を確実に伸ばし、夢の実現を支援する学校
--------	-----------------------------

重点目標	1 進取の気概を持ち、社会に貢献できる人材を育成する 2 総合的な知の習得を行う 3 地域との交流を深めた教育活動を行う
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	事務局(教職員)	名
	生徒	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価								学校関係者評価	
年度目標					年度評価(月 日現在)			実施日(令和5年 月 日)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策		
1	授業におけるICTの活用と有効性はコロナ禍の4年間で職員に共有され、実施されている。本年度からは入学生徒には一人一台端末の購入が原則となり、教育活動のあらゆる場面で効果的な利用が求められる。また、進路指導については、あくまでも本人にとっての第一志望を最後まで貫けるよう、正確で迅速な情報提供や、進学に向けた学習指導の充実が不可欠である。	①生徒の主体的な学びを喚起する、わかりやすく深い授業の実践 ②多様化した大学受験に向けた進路指導の充実	①授業冒頭で、教員から生徒に「本時の目標」を伝え、学びの目標を明確にする。 ①効果的にタブレットを用いた授業を実施する。 ②多様化した大学受験状況に対応するため、小論文指導や面接指導を充実させる。また、生徒や保護者に向けて進路に関わる最新の情報を提供する。 ②勉強マラソンや土曜開放の利用を推奨する。授業の補助としてスタディサブリを効果的に用いる。	①授業アンケートで、毎時の授業の目標の明確化がなされていたとの回答を得ることができたか。 ①学校生活アンケートで、ICTの活用により成績や授業の理解度が向上したとの回答は得られたか。 ②小論文指導や面接指導は組織的な計画を踏まえて実施されたか。また、保護者アンケートで学習指導や進路指導に対する満足度は90%を超えたか。 ②勉強マラソンや土曜開放教室は活用されたか。また、スタディサブリは効果的に活用されたか。					
2	ここ数年、グレーゾーンの発達障害や真正な発達障害でありながら、義務教育段階で療育に繋がらなかった生徒の入学が増えている傾向にある。その反面、特別支援的な知識や理解は教員間でかなりの格差が見られ、対応も適切とは言えない場面もしばしば見受けられる。障害の表面的な理解ではなく、本質的な理解を教員側が持ちながら教育活動を充実させる必要がある。それは通常発達の生徒にとってもストレスの軽減された教育環境である。	①学びの意識化と心の教育の充実 ②個に応じた指導の充実	①入学当初の「スタートアップ・プログラム」により、1年生全員に新しい学びについて意識化をさせる。 ①多様な価値観を認め、健全な心を育む、在り方生き方教育を推進する。 ②特性のある生徒に対し、校内の組織的対応を充実させる。また、スクールカウンセラーや巡回支援を効果的に活用する。 ②特別支援に係る研修会等を実施し、教員の理解を深める。	①「スタートアップ・プログラム」実施後の、生徒アンケートによる満足度は高かったか。 ①在り方生き方教育は、本校の生徒の実情に応じたカリキュラムと教材のもと、計画的に実施されたか。 ②生徒が抱える問題に組織的かつ速やかに対応できたか。スクールカウンセラーや巡回支援は効果的に活用されたか。 ②教員向けの校内研修や必要な情報提供は適切になされたか。					
3	現状維持こそが最大のリスクであることの認識を、職員間でしっかりと共有する必要がある。教育における不易と流行は常に点検され、批判的視点を持って認識されなければ、改善の足枷となるばかりである。入試倍率は定員すれすれの状態が例年継続しており、本校の魅力発達の視点を多角的に見直し、新規事業を推進していく必要がある。そのためには外部機関との連携を効果的に進めながら、時代を先取りした企画を立案し、組織的な取り組みを強力に押し進めていく必要がある。	①地域連携の強化 ②新規事業の実施と積極的な広報活動	①杉戸町役場や近隣の中学校と連携し、「総合的な探究の時間」で地域が抱える諸課題について具体的に理解を深める。 ①小高交流事業を推進し、校内の部活動と近隣小学校との交流を計画的かつ積極的に推進する。 ②生徒募集に係る新規事業を早期より計画し、実施する。 ②令和7年度から導入予定の新制服について、幅広く意見を募りながら、オリジナリティとクオリティの高いものを作り上げる。	①杉戸町役場や近隣中学校との連携や交流はなされたか。 ①小高交流事業は実施され、地域との連携や親睦を充実させることはできたか。 ②新規事業は計画され、実現されたか。また、その効果は生徒募集に結びつくものであったか。 ②新制服に関するアンケートは実施されたか。また、制服検討委員会は新制服の制定に向け、適切に開催されたか。					